



大木

大木町立大木中学校

学校だより

令和元年度

第15号(3月)

文責 校長 庄司保浩

卒業式を終えて

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の為に国内のほとんどの学校が臨時休校となり、卒業生はやるせない想いで2週間を過ごすこととなりました。

そして卒業式の開催も危ぶまれるなか、3月13日(金)に本校において第51回卒業証書授与式を挙げてまいりました。皆様にも感謝申し上げます。

今年は一四五名の生徒が本校を巣立っていきましました。卒業生総代の答辞を紹介します。

答辞

寒さが厳しかった冬も終わり、桜のつぼみがふくらみ始める季節となりました。このよき日、二週間ぶりに集う友達と共に、卒業式に参加できたこと。感謝の思いでいっぱいです。本日の式を迎えるにあたり、たくさんの方々に尽力を頂いたことと思います。本当にありがとうございました。

思い出せば、三年前の春。私たちは大きく、真新しい制服に身を包み、期待と不安を胸に、入学式を迎えました。名前を呼ばれて返事をするだけで精一杯だった私たちは、今日沢山の思い出が詰まったこの制服を着て、共に笑い、共に泣き、切磋琢磨し合った一四五名の仲間と共に、この大木中学校を卒業します。三年間を振り返ると、沢山の思い出が駆け巡ります。



一年生の思い出と言えば自然体験学習。ドキドキとワクワクを抱えながら臨んだウォークラリーでは、分かれ道が来る度に、「右か左か」と互いの意見がぶつかることがありましたが地図を片手に話し合い、少しずつ前に進むことができました。話をしていくなかで、みんなの仲が深まったように感じ、とても嬉しかったことを覚えています。

二年生では、待ちに待った修学旅行がありました。京都・奈良の美しい景観に心を躍らせ、教科書でしか見たことがなかった建物の美しさや荘厳さ、昔の人の知恵と技術のレベルの高さに驚かされました。

私たちの修学旅行の一番の思い出、と言えば、恋バナ：ではなく京バーム。大木中、代々受け継がれる人気No.1の京土産で、買い物タイムに売り切れてしまいたい人が続出。そんな私たちを見かねた先生方が、新たな買い物タイムを設定してください、お目当ての京バームを、みんなが無事に購入することができました。大木中生の買い占めによって、お土産屋さんから京バームが消える、という事態が発生しましたが、これも良き思い出の一つです。

そして、あつという間に迎えた三年生。全ての行事に「最後」という言葉がつく学年になりました。一番の思い出といえば、体育大会。二年生の終わりから練習を始めたソーラン節では、そのハードさと、足の痛みには耐えるだけで精一杯で、なかなか気持ち一つにならず、ぶつかることもありました。そんなときに見たリーダー達の姿。私たちに教えるために早い時間から朝練をしていたこと、私たちが一つになるために遅くまで話し合いをしてくれたこと、私たちが奮い立つように声を枯らし、立てなくなるほど真剣に練習に臨んでいたこと。そんな一生懸命な姿に触れ、「このままではいけない」と私たちの心に最上級生としての自覚が芽生え始めました。

そうして迎えた、体育大会。沢山の思い出が染みこんだ伝統のハッピーを身にまとい、がむしやらの踊ったソーラン節。「やー」というかけ声とともに、3段タワーが完成したときの感動と達成感を、今でも覚えています。

また、私たちの学年ならではの活動、と言えば学年集会。学年が上がるごとに、集会の自主性が高まっていき、知恵を出し合いながらO×ゲームや劇など工夫を凝らした活動を行いました。最後に企画していた学年集会は、残念ながら中止になってしまいました。準備期間の学級や学年の雰囲気は、今までで一番の一体感があり、真剣で、温かなものでした。この幻の学年集会は、私たちの絆をより深めてくれたかけがえのない最高の集会だったと思います。

私たちが過ごしてきた三年間には、まだまだ言い尽くせぬほど沢山の思い出が詰まっています。そんな大木中学校を引き継いでいく在校生の皆さん。生徒会役員を中心に、伝統を受け継ぎつつ、皆さんが描く大木中学校を築き上げていってください。仲間とのよき思い出が私たちに以上に沢山できることを心から願っています。

先生方、三年間本当に世話になりました。私たちのことを真剣に思い、本気で叱り、困っていたら全力で助けてくださったこと、絶対に忘れません。職員室に入れば、いつも必ず声をかけて頂き、楽しい話をたくさんしました。それがもう、できなくなると思うと、寂しいですが、新しい場所でもっともつと成長し、その姿を見て頂けるように頑張ります。本当にありがとうございました。

お父さん、お母さん。学年が上がって、少しずつ大人に近づいている私たちは、イライラすることが多くなり、困らせてしまうことがたくさんありました。そんな私たちを見放さず、時には厳しく、時には優しく、時にはいつも通りで、見守ってくれました。心から感謝しています。お父さん、お母さんのおかげで、こんなに大きく成長することができました。本当にありがとうございました。まだまだ、わがままは続きますが、これから末永くよろしく願います。

そして、大切な大切な友達へ、これまでたくさんの方がいましたね。苦しかったことを乗り越えることができたのも、楽しい時間を過ごすことができたのも、ここにいます。友だちがいてくれたからです。この二週間、友だちと会えない日々を過ごす中で、毎日学校で友だちに会えること、友だちがおはようと声をかけてくれること、昼休みに一緒に遊ぶこと、そんな些細な日常が、宝物であったことに気づきました。この卒業式で、短い時間ではあるけれども、かけがえのない友だちと再会し、共に過ごせることがうれしくて仕方ありません。今日から、私たちは別々の道を歩みますが、共に過ごしたこの三年間の思い出は、絶対に忘れません。これからもずっとずっと友だちです。ありがとう。最後に、この三年間私たちを温かく見守り、最高の思い出をくれた大木中学校に感謝の気持ちを込めて言います。ありがとう。そして、さようなら。

令和二年三月十三日

卒業生代表 久良木 優妃

残念ながら、3年生は義務教育最後の貴重な二週間を仲間と共に過ごすことができませんでした。しかし、久良木優妃さんの答辞や卒業生呼名のときの一人ひとりの返事、三年生全員で歌った卒業の歌からも卒業生一四五名がそれぞれに大木中学校三年間を充実して過ごせたのだと窺い知ることができた素晴らしい卒業式でした。巣立っていく一四五名の卒業生の限らない前途に、幸多きことを心より願っています。

堀干し体験

希望者を募り大木町の文化体験をしました。今年も生徒会執行部の皆さんが参加してくれました。写真はその時の様子です。

